

**横浜市立 神橋小学校 平成29年度版 中期学校経営方針 (平成28～30年度)**

創立 131 周年	学校長 末松 隆一郎	副校長 平野 好子	学期 2 学期制	児童・生徒数 520 人
学級数 一般級: 17 個別支援級: 2			主な関係校: 六角橋中学校	

**学校教育目標**

「自ら学ぶ子」(知) =各教科・領域において課題解決型の学習を重視し、児童の発言や活動を大切に学習形態を進めていきます。  
 「誰とでも仲良くする子」「互いに認め合おうとする子」(徳) =組織的な児童支援の取組を通して、心豊かな関係づくりができるようにしていきます。  
 「すすんで運動し、健康的な生活を送る子」(体) =体力アッププランの実践、健康教育の励行・充実などを通して、健康でたくましい心と体の育成を進めます。  
 「あいさつをする子」(公・開) =地域・社会との関係を重視する活動を通して、地域社会の一員としての自覚や規範意識をもてるようにするとともに、社会の変化に対応できる能力を育成していきます。

<b>学校の特徴</b>	□創立130年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。多くの卒業生を輩出し、地元で生活する人も多い。学校を愛し、協力する思いは強く、地域とつながり、より良い子どもたちに育ててくれる学校であることを期待されている。 □学校近くには、水道道、六角橋商店街、岸根公園と歴史・商業・自然に関する学習材に恵まれている。また、学習協力者などの人材にも恵まれ、地域を生かした学習が行いやすい環境にある。 ■学習状況調査の結果から学力は横浜市の平均以上であるが、学習を楽しんでいると感じていない傾向が見られた。 □個人の違いを認め、受け入れることができる児童が多い。
--------------	---

**学校経営中期取組目標**

「誰もが、安心して、豊かに生活できる学校づくり」を目指します。

○一人ひとりが居場所として実感できる学校づくりを進めます。 ○一人ひとりを大切にするとともに、達成感を味わう活動・授業づくりを行います。 ○話し合いや体験を重視した学習を進め、思考力・判断力を伸ばします。 ○家庭・地域社会との連携をもとに、開かれた学校づくりを進めます。 ○学校評価を積極的に進め、経営・運営に生かします。 ○教職員の積極的な経営参加を進めます。

**小中一貫教育の取組**

<b>六角橋中学校</b>	<b>ブロック</b> : 六角橋中学校・神大寺小学校・中丸小学校・斎藤分小学校
<b>9年間で育てる子ども像</b>	○「基礎・基本の定着とともに、それまでに学んだことを活用して課題を解決する力」や「自ら進んで学習する態度」を身に付けた子ども ○「自尊感情」と「規範意識」の高い子ども
<b>自校の具体的取組</b>	○「小中一貫教育の計画的・組織的な運営・改善」をブロックテーマとして設定し、学力向上・児童生徒指導を充実する。 ○6月と1月に合同授業研究会を行い、目標・授業展開・指導内容について共有化する。 ○小中一貫カリキュラムについて共通項目を見直し、本校のカリキュラムを修正する。 ○ブロック専任会・情報交換会・地区懇談会等を通して児童の状況を把握し、全学年で統一した指導・支援を行う。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
--------	------	-------

<b>確かな学力</b>	話し合い活動を大切にし、自分の考えを表現したり交流したりできる授業展開を工夫する。個に応じた学習支援をし、基礎基本の学力の定着を進める。	①話し合い活動では、根拠を明確にして自分の考えを分かりやすく相手に伝えたり、相手の考えの良さや自分との違いに気づいたりできる力を伸ばして、思考・判断力を育てていく。②TT・少人数指導・特別支援教育・国際教室などのチームティーチングを充実し、個に応じた指導を行うことで、基礎基本の定着をめざす。③体験を多く取り入れ、豊かな学びの場を提供する。
<b>豊かな心</b>	人とかかわりを大切にし、自尊感情や自他を大切に思い合う心情を育てる。	①たてわり集会を充実させるとともに、行事や学習活動にたてわり組織を活用するなど、異学年同士のつながりを深める。また、高学年に主体的な活動を実践させるとともに、それぞれの学年が自分の役割を意識して活動できるようにし、自己有用感を味わうことができる機会とする。②すべての教科学習で、多様な考え方を認め合える授業づくりを行う。
<b>健やかな体</b>	自分のめあてをもって、継続的に取り組みながら体力を向上させる。食育・保健学習を通して、健康への関心を高める。	①一校一実践運動として縄跳びを取り上げ、学習カードや進級表を活用しながら体力の向上を目指す。長縄大会を実施するなど、年間を通して意欲的に取り組んでいくよう配慮する。②養護教諭・栄養士と連携しながら授業を行い、健康教育・食教育を充実する。
<b>児童・生徒指導</b>	「神橋ルール」をもとに、学校全体で統一した指導・支援をする。人と接することを大切にし、自分からあいさつができるようにする。	①スタンダード「かみはしルール」のダイジェスト版を保護者に配付し、家庭・学校が一体となり、指導支援を行う。②代表委員会・学校保健委員会、実行委員会等を生かし、児童の主体的な活動を展開する。③職員会議の中で、児童理解の話し合いを実施し、共通した指導・支援にあたる。④教科担任制・交換授業を担任間で実施し、学年児童全員に関わりながら共通した指導をする。
<b>特別支援教育</b>	教育的配慮が必要な児童に、具体的な支援をする。取りだし・入り込み形態の少人数指導を充実させ、個の力を伸ばす。	①個の状況に応じた交流を積極的に実施することで、個の力を伸ばすとともに、相互理解を図っていく。②特別支援について研究した実績と成果を生かし、教室の環境整備と共通した指導を実施する。③誰もが安心して豊かに生活できる学校をめざし、違いと良さを認める教育をさまざまな教科・領域、行事・活動機会で行う。
<b>安全教育</b>	安全に関する情報を正しく判断し(自他の危険予測)、安全のための行動(危機回避能力)ができるようにする。	①避難訓練・防災訓練・津波訓練・不審者対応訓練を月一回実施し、自分の命・安全を自分の力で守れるように、知識や判断力をつけていく。②見守り隊や保護者の協力をあおぎ、安全の確保に努めると同時に、児童周辺の大人の存在を意識させ、頼る方法を理解させるなど、実践的な指導を行う。③訓練の振り返りを生かし、施設を改善する。
<b>地域連携</b>	地域の方々との関わりの機会を大切にし、そのもち方を工夫する。地域の教育力を活用し、学習に生かす。	①地域の歴史・六角橋商店街・岸根公園などを学習に生かし、地域の教育力を活用しながら体験的な学習を充実させる。②児童も地域行事に積極的に参加し、多くの人との触れ合いを通して、まちを愛し、人を愛す心情を育てていく。
<b>人材育成・組織運営</b>	キャリアステージに応じた目標を明確にし、具体的な指導・研修を実施しながら、育成していく。	①メンター研修はミドルリーダーの指導のもと月に1回の研修を行うが、他の会議は入れず、多くの教職員が参加できるようにする。研修の内容によっては、教職員全体の研修とする。②キャリアステージに応じた課題・目標を設定して学校運営にあたることで、個の力を生かした学校運営を進める。

<b>いじめへの対応</b>	児童一人ひとりの心理や特性を見いだす個に寄り添った児童理解に努めるとともに、道徳教育、人権教育の充実と、組織対応力の向上を図る。	①全体打ち合わせやミニケース会議等により、情報の共有を密にする。②児童の心の動きをとらえるため、カウンセリングスキルに関する研修を行う。③「特別の教科道徳」において、自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力をはくぐむ、考え議論する道徳の学習を目指し進めていく。
担当	いじめ防止委員会	

